

第五中学校は、第一小学校と第四小学校とともに、小中一貫教育を合同一体で行っています！

地域運営学校 八王子市立第五中学校



学校だより

発行 八王子市立第五中学校 八王子市明神町4丁目19-1
代表電話 042-(642)-1633

【教育目標】

- ◎ 人・地球との共生 〈より高い人間性をめざす人〉
- 未来社会への知性 〈学び続ける人〉
- 心身共に健康 〈健康で生命を大切にする人〉

第2号 令和7年5月12日 月曜日



令和7年度 全国学力・学習状況調査(第3学年:4月実施)

【全国学力・学習状況調査の目的】

- 義務教育の機会均等とその水準の維持・向上の観点から、
- 全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
 - 学校における個々の児童生徒への学習指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題 内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりです。

- ① 身に付けておかなければ**後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容**や、**実生活において不可欠であり常に活用できる**ようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を**実生活の様々な場面に活用する力**や、様々な**課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力**等
- (令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領 令和6年12月23日 文部科学省)

全国学力・学習状況調査 CBT サンプル問題 令和7年度 中学校理科 - 問題

問題一覧

問題 7

正答例

ガスバーナーの炎が青いとき(図1)と赤いとき(図2)の化学変化を原子や分子のモデルを使って表してみよう。

【化学反応式のつくり方】

☆化学変化の前後で原子の種類と数は変化しない。

【インターネットで調べたこと】

☆ガスバーナーの炎の主な成分

プロパンという炭素と水素の化合物(化学式は C_3H_8)である。

☆プロパンの燃焼

酸素が十分にあるときは、二酸化炭素と水を生じる。

酸素が不足しているときには、一酸化炭素、水、炭素が生じる。

【炎が青い(酸素が十分にある)ときの化学変化】

酸素分子を5個にすると、化学変化の前後で原子の種類や原子の数が合った。

プロパン + 酸素 → 二酸化炭素 + 水

問題一覧

問題 7

正答例

【炎が赤い(酸素が不足している)ときの化学変化】

酸素分子を1個にすると、化学変化の前後で原子の種類は合ったが、原子の数が合わなかった。

プロパン + 酸素 → 一酸化炭素 + 水 + 炭素

【問い】

【化学反応式のつくり方】をもとに、【炎が赤い(酸素が不足している)ときの化学変化】を見直して、【 】の中のモデルを修正しました。下のモデルを移動して、【 】が適切な修正したモデルになるように完成させなさい。

【並び替え】図を移動させることで解答

令和7年度の全国学力・学習状況調査は国語、数学、理科、生徒質問紙が実施されています。国立教育政策研究所のWEBページに理科のサンプル問題(一例:写真下段2枚)が掲載されています。暗記では解けない問題です。理科の授業で学習した内容を活用し、問題の意図を理解して考えないと解くことができません。

□ 校長講話 「読解力の大切さ ～デマやフェイクニュース、犯罪への勧誘などを見抜くために～」

○ ECD(経済協力開発機構)はPISA(Programme for International Student Assessment:ピザ)調査という国際的な学習到達度に関する調査をおおむね3年ごとに実施しています。 PISA調査の目的は、義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査です。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、調査が行われています。

今回、伝えたいのは「読解力の大切さ」です。PISA調査の「読解力」の定義は、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこととされています。この調査のポイントは、「①情報を探し出す」「②理解する」「③評価し、熟考する」です。

2022年に行われた調査では、日本は読解力の平均得点(516点)は、OECD加盟国中2位(順位の範囲:1－6位)でした。前回2018年の調査(504点)から有意に上昇し、前々回2015年調査(516点)と同水準になりました。

2018年のPISA調査では、ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文から必要な情報を探し出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりする大問題が出されています。その大問題では、下の枠内にある問4、問6の正答率がOECD平均より低い状況が見られました。

◆課題文1:企業のWebサイト (商品の安全性を宣伝) 問1:字句や内容を理解する 69.9%→75.2%【②理解する】 問2:記載内容の質と信ぴょう性を評価する(自由記述) 60.2%→65.7%【③評価し、熟考する】	◆課題文2:オンライン雑誌記事 (商品の安全性について別の見解) 問3:課題文の内容形式を考える 81.5%→83.1%【③評価し、熟考する】 問4:必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し探し出す 56.1%→56.8%【①情報を探し出す】	◆課題文1と2を比較対象 問5:両文章の異同を確認する 53.1%→59.9%【③評価し、熟考する】 問6:情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する(自由記述) 8.9%→14.3%【③評価し、熟考する】
---	--	--

※青字は日本の正答率(左:2018年調査、右:2020年調査) 文部科学省

ここで注目して欲しいのは、問6(赤枠内)です。「情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する」ことへの問いです。例えば、最近注目されているニュースの一つである「闇バイト」の事件にもつながる要素が考えられます。インターネットやSNS上に書かれたアルバイトの募集を見て申し込んでしまい、気が付いたら犯罪の協力をさせられていたなどと逮捕された容疑者が供述しているとニュースで聞いたことはありませんか。元を辿れば、闇バイトの募集広告を見抜けなかったことが始まりです。インターネット上で巧みに誘導されたり、おいしい話で勧誘している募集を問6の情報の質と信ぴょう性を評価し自分なりにどう対処するのか、または問2にあるように記載内容の質と信ぴょう性を評価できなかったことが原因の一つではないでしょうか。

現代はインターネットやSNSの普及により、様々な情報が氾濫しています。場合によっては、人を貶めたり、誹謗中傷したり、その情報を真実と自己理解して、拡散させたりしてしまう人も世の中には残念ながらいるようです。読解力が身に付いていない人ほど、デマやフェイクニュースを見抜けず、誤った情報に基づいて、判断・決断をしてしまうことにつながるのではないのでしょうか。中には、そのデマやフェイクニュースを盲信し、誤った先入観から同調たり、批評したりする方も一定数は残念ながら世の中にはいるようです。

インターネットやSNSの情報も含め、その情報が真実なのか否か、その情報が誰かを貶めるような意図的な方向性が作用していないか、何かの説明を受けたときに、自分の損得の感情で判断していないかなど俯瞰して判断することが大切です。インターネットなどに掲載されている情報を鵜呑みにしてしまうことの危険性について理解をしておく必要があります。例えば、勉強をしている時に、何かをインターネットで調べたりする際も同様です。情報の質と信ぴょう性を評価し、根拠をもつことが必要になります。

課題となっている読解力をそのままにしておくことは、「何かで成果を出すこと」や「人と良好な人間関係を築くこと」ができなくなる要素があるということです。一方で、読解力が身に付けば、得られる成果や人間関係を良好にできることにもつながります。読解力が身に付いている、身に付いていないの差は、これから社会で生きて行く上で、大差になるということです。

第五中学校では、週4日、朝読書の時間があります。本というのは、大量の「言葉」、「文章」で構成されています。「本を読む」ことは、そこに書かれている言葉や文章を理解し、数万文字からなる文脈を読み解いたり、書かれている文章の行間に込められている筆者の思いを読み解いていく行為です。また、本に書かれている内容についても既習の知識や経験を踏まえて深く考える、想像できる貴重な機会です。読書離れが進んでいると言われますが、朝読書の時間を有効活用して、ただ本を読むという行為から、読解力を高めるために、深く考えたり、文脈などから様々なことを想像したりする読書にしてみてもどうでしょうか。また、授業では、話し合い活動も全ての教科等で行われています。会話というのは、その場で相手の話を理解し、適切に言葉を投げ返すことで成り立ちます。会話を通じて新しく言葉を獲得したり、自分が持っている言葉や表現を積極的に使う(会話量を多くする)ことによって、読解力はもちろん、言語力も伸びると思います。積極的チャレンジして、読解力、言語力を鍛えましょう。

教育活動等について

○ 各教科における学習評価についての説明

令和7年4月11日(金)に開催した評価・評定説明会でお知らせしたとおり、4月の授業開始時に各教科の学習評価について、授業担当の教員から生徒に説明を行いました。生徒は真剣に聞き入る様子が見られ、中にはメモを取るなど学習評価について確認をしていました。

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものです。

「生徒たちにこういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自ら学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが目的の一つです。生徒一人一人が、前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉えていく必要もあります。

○ 教科の授業① 数学科

各教科等で本格的に授業が始まりました。写真は数学科の授業です。ICTを取り入れたデジタル教科書を積極的に活用するとともに、板書は本時間の授業で身に付ける内容のねらいが明確に書かれています。本時間の授業と単元を貫いた学びに見通しをもって学習指導要領の示す内容に達成に向けて指導方法、指導内容について工夫し、取り組んでいます。

八王子市では、令和7年の2学期を目標に、ICTの通信環境の改善を図ると聞いていますので、子どもたちの学習環境はさらに良くなると考えています。

○ 教科の授業② 英語科

写真は英語科の授業の様子です。英語科だけにとどまらず、各教科等でグループ(生活班)、小集団(3人から4人)になり、対話を通して学習のねらいを深める場面として話し合い活動を実施しています。

また、授業では生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を取り入れます。生徒の学習状況に応じて、今後も生徒が学ぶことと、自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう授業改善を適宜図ります。

○ みずき通りフェスティバルへの参加(地域貢献)

4月20日(日)、みずき通り商店会主催のみずき通り2025 花と緑のフェスティバルに本校のダンス部が参加し、ダンスパフォーマンスを披露しました。当日は大勢の人が会場に集まり、ダンスを鑑賞して頂きました。

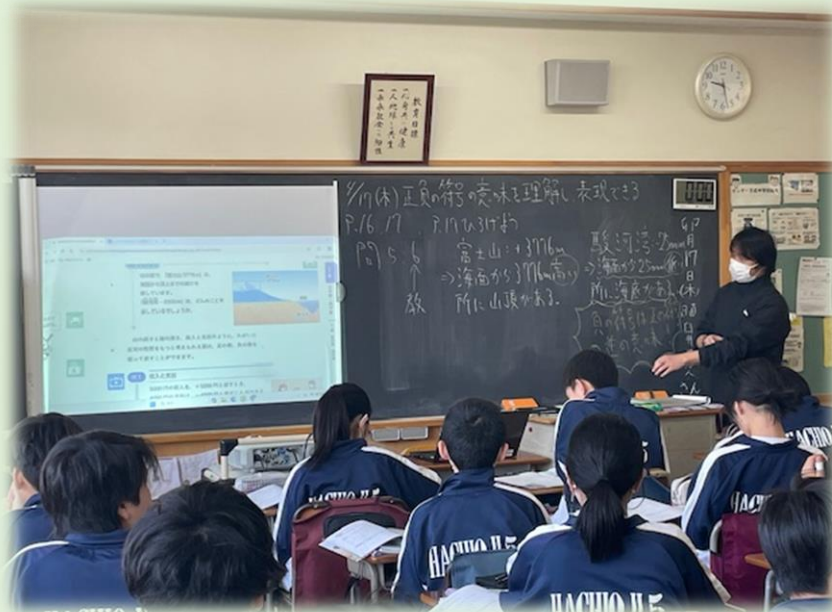
みずき通りフェスティバルには毎年参加をしていますが、地域の皆さんが楽しみにしてくださっていることが会場の熱気で伝わりました。

※令和6年から、このように地域貢献活動など、様々なチャレンジしたり、取り組んだりしていることを八王子市では通知表にも記載できるようになりました。

○ 八王子ショートフィルム映画上映会のボランティア(地域貢献)

4月26日(土)、八王子ショートフィルムの映画上映会が地域で開催されました。本校では、令和7年度から部活動の地域展開の一つとして、ボランティア部から地域ボランティアクラブと名称を変更し、地域からボランティア活動の募集を受けて、校内の掲示板に募集要項を掲載し、窓口となる先生を通して生徒が主体的にボランティア活動に参加ができる機会を確保できるようにしました。

活動の核となるのは旧ボランティア部の生徒ですが、令和7年度からは誰でも参加をすることができます。教員の引率もありませんので、本来のボランティア活動として生徒が主体的に参加をすることとなっています。その第一弾として、映画上映会のボランティア活動が行われました。



お知らせ

○ 5月9日(金) 台湾 高雄市 パイナップル 学校給食への寄贈

令和7年5月9日(金) 台湾パイナップルが給食で提供されました。当日は、八王子・台湾友好交流協会 黒須 隆一 理事長(元八王子市長、第五中学校卒業生)が来校され、1年1組の教室で台湾 高雄市との友好や台湾パイナップルについて、講話を頂き(オンラインで第1学年では校内配信)、一緒に給食を食べました。写真は、給食センター元横山の栄養士から食育指導の風景と生徒会長が感謝の手紙を読んでいる場面です。生徒会からは感謝の手紙と花束、1年1組からは色紙をお渡ししました。5月10日(土)毎日新聞の朝刊で取り上げられました。



○ 5月14日(水) 八王子市学力調査

令和7年度の八王子市学力調査が5月14日(水)に実施されます。調査の結果は個票にて後日返却する予定です。なお、当日の持ち物は次の通りですので、事前に準備をして忘れ物が無いようにしてください。

【学力調査に必要な持ち物】

○中学校 1年生 鉛筆(シャープペンシル可)、定規
○中学校 3年生 鉛筆(シャープペンシル可)、定規

○中学校 2年生 鉛筆(シャープペンシル可)、定規、コンパス

○ 5月31日(土) 体育大会

5月31日(土)に体育大会を開催します。詳細は配布されたプリントを御覧ください。令和7年度からの体育大会は、競技種目を大幅に見直し、特に学年種目は体育大会実行委員会が中心となって、生徒が主体的に学年種目を決めています。また、学級と学年が一つとなってさらに取り組める競技種目を重点にしています。

また、天候、暑さ対策などを十分に取りますが、昨今の気候の変動に伴う 生徒等の安全・負担を軽減するため、競技は午前中に行い、昼食を食べた後に閉会式を行うよう、改善をはかりました。令和6年度は生徒の疲労がピークの中、夕方遅くまで片付けをする状況が見られたためです。もし保護者の方で当日、片付けなど御協力頂ける方がいらっしゃいましたら、御連絡いただけますと助かります。

さらに、学校評価アンケートでも御指摘いただいた、リレーの際に、保護者席と逆のコースを走る生徒が見られないということについては、令和7年度から南多摩中等教育学校側にある本校の西門を開放し、逆のコースも見られるよう配慮しました。一方で、西門付近は、観覧場所や公道が狭いこともあり、参観については入れ替え制を取らせていただきます。当日、放送にて、各学年のリレー等の入れ替えのタイミングでお知らせいたしますので、御協力ください。

学校だよりは令和7年度からデジタル配信となりました。
学校ホームページからも見られますので御活用ください。

<https://hachioji-school.ed.jp/dai5j/>



※ 携帯電話・スマートフォンからは二次元コードからの閲覧が便利です。

学校ホームページの
二次元コード